

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 2 2	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Patterns of clinically significant symptoms of depression among heavy users of alcohol and cigarettes.</p> <p>重症飲酒者および喫煙者における抑鬱症状の特徴について</p>	
執筆者	
Epstein JF, Induni M, Wilson T.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Prev Chronic Dis. 2009;6:A09	
キーワード	
多量飲酒者、喫煙者、抑鬱症状	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>抑鬱は頻度も多く、治癒可能な疾患であり、喫煙や多量飲酒との関連を認める。本研究ではカリフォルニア州における抑鬱の有病率と地理的サブグループにおけるその違い、多量飲酒や喫煙との関連を検討する。</p> <p>方法：</p> <p>2006年度カリフォルニア州行動危険因子調査(BRFSS)は8項目の健康関連の質問を含んでおり、抑鬱症状評価するために標準化された調査方法である。2006年度 BRFSS 調査結果を基に、カリフォルニア州の抑鬱有病率、そして抑鬱と喫煙および多量飲酒習慣との関連をロジステックモデルにより検討した。</p> <p>結果：</p> <p>カリフォルニア州の成人における抑鬱の有病率は 9,2%であった。ロジステックモデルの検討では喫煙者は非喫煙者に比較して抑鬱に罹患する確率は三倍高く、多量飲酒者は非飲酒者に比較して抑鬱に罹患する確率は三倍高かった。</p> <p>結論：</p> <p>多量飲酒並びに喫煙はそれぞれ抑鬱症状と関連しており、両方に該当する者は抑鬱に罹患する可能性が高い。飲酒者は同時に喫煙者であることも多く、また、その逆も真である。両方に該当する者、すなわち多量飲酒かつ喫煙者に重点をおいた介入が必要であるし、臨床家は多量飲酒かつ喫煙者は抑鬱に罹患する可能性が高い事に留意する必要がある。</p>	